

第七十八回句会 俳句

【高点句】

- ☆レシートの長き買い物年用意 〈眞澄〉  
☆初仕事お国の銘菓そこかしこ 〈安津子〉  
☆海穏やか機長の御慶聞きながら 〈明美〉  
☆タクシーの訛りに和み冬ぬくし 〈明美〉

【各自一句】

- ・集まれる顔ぶれ変はり雑煮椀 〈緑〉  
・指あとの残りし母の丸き餅 〈美保〉  
・新年を知るか知らずか鳥は鳴き 〈莫院〉  
・自転車の前後で歌う息白し 〈撫子〉  
・筆鋒の乱れし賀状病告げ 〈伸子〉  
・日記買ふ黄緑色の革表紙 〈郁代〉  
・鱸酒や今宵も同じ話して 〈明美〉  
・どっさりの伊予柑届き文二行 〈眞澄〉  
・疫病の退散込める去年今年 〈隆司〉  
・子規詠みし城そのままに冬の空 〈一馬〉  
・初晴の見送る背の頼もしき 〈安津子〉  
・ちぎり絵を貼るかのごとく雪落ちる 〈哲雄〉  
・同僚と富士山仰ぎ初仕事 〈青蛙〉

\*以上、40句(3句ずつ13名と1句が1名)より、選句は14名により4句ずつ

\*高点句は、高得点の句より3句(今回は第2位が同点で3句)

\*各自一句は、得点に関わらず、作者自身の選出による(得点順ではなく、俳句一覧表に偶然記載された順に掲載/1名は掲載辞退)